

令和7年度 江戸川区立船堀第二小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	○進んで学習する子ども ○思いやりのある子ども ○じょうぶな子ども		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○目標に向かい、子どもも職員も主体的に取り組み、子どもが育つ学校 地域の期待に応え、保護者が通わせてよかったと思える学校 ○確かな学力が身につく、豊かな心が育ち、健康でたくましい児童 ○「子どもが育つ学校」を念頭に置き、自らの職責を果たす教師
前年度までの本校の現状	成果	○校内研究を中心に授業改善を図ることができた。 ○多様な人々との関わりをもつ授業、多様性について考えさせることができた。 ○仕事の見通し・優先順位を立て、効率的・効果的に働き、時間外勤務時間を減らすことができた。	課題	○児童一人一人が自分自身の成長のために、能動的に学びを深めていく姿勢。 ○子どもの心のたくましさ、持続力・持久力、様々な問題を自分事としてとらえる力の育成。 ○若手教員・学校の核となるミドルリーダーの育成。 ○若手教員の指導力向上。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○共通理解・共通行動	・教科担任制、習熟度別指導等で子どもが育つよう共通理解・共通行動	・教科担任制が充実し、子供の学びが深まった。教員肯定的評価90％	A		A	・3～6学年では教科担任制を実施し、毎週水曜の教材研究日、日常的な相互参観を生かして、学年の壁を越えて授業改善を進めている。特に高学年では、習熟度別算数の児童の実態に合った指導改善を進めてきたことで、基礎学力の底上げにつながっている。	A	教科担任制、習熟度別指導を活用し、学年を育てていることは素晴らしい。					
	○主体的で深い学びに向けた授業改善の推進	・校内研究を核にすべての教員が授業改善に取り組み、具体的な改善を図る。	・授業改善に取り組んだ教員肯定的評価100％ ・授業が楽しい、よくわかる児童肯定的評価80％	A		A	・国語科説明文の校内研究授業・協議や、夏季休業中の校内研究会を通して、全教職員で授業改善のポイントを熟慮してきた。国語科だけでなく、他の教科等でも生かしながら、課題設定・見通しや学習過程を改善している。	A	校内研究を核に、授業改善に取り組んでいるので、これからも続けてほしい。若手の育成にこれからも尽力してほしい。					
	○読書科の更なる充実	・船二100選を作成しテーマ読書と共に読書の幅を広げる。読書科ノートの活用及び探求的学習の実施。	・本を読むことが好き。児童肯定的評価90％ ・江戸川っ子読書科コンクールに全員参加	A		A	・「船二100選」を活用した読書活動により、児童は様々な本を手取る機会が増え、読書の幅が広がった。 ・「校内贈る学習コンクール」を設定し、総合・読書科で探究的な学びを実施している。カリキュラム・マネジメントを通して子供の学びを充実させていきたい。	A	本を読む経験が足りない。しっかり本を読む経験をさせていきたい。					
体力の向上	○個の「めあて」を明確にした授業実践	・めあてを明確化した体を動かすことが楽しいと思える授業の実施	・体育の授業で達成感をもつことができた。できるようになってうれしかった。児童肯定的評価85％	A		A	・めあてをもっては、低学年以外はしっかりめあてをもって行っている。低学年のめあてのもたせ方に難しさを感じているように思われる。 ・低学年を中心に授業観察を行って、めあてのもたせ方の不安を減らせるように声かけをしていく。	A	行事でも、目標をもちがんばっている姿が見られた。					
	○学年・個に応じた体力向上の縦の取り組みの充実	・中休みの全員外遊び ・なわとびWEEK、朝の運動遊びの充実	・休み時間は進んで体を動かしている。児童肯定的評価80％ ・子どもたちの体力向上につとめた。教員肯定的評価80％	A		B	・中休みの全員遊びは、暑さによる出る出ないの判断が難しかったり、体調面の心配もあったりした。これからは外で遊びやすい気候になるので、全員が外遊びをするという意識をもてるように声かけをしていく。体力向上に向けた研修や実施案に活動例を記載しているが活用されていないので、呼びかけていく。	A	校庭で遊んでいる児童が多い。体力月間を、有効に活用してほしい。					
	○健康教育・食育の推進	・毎日19日を「食育の日」とし、食と健康について指導する。 ・歯の健康について関心をもつ。	・食や自分の健康について関心が高まった児童肯定的評価90％ ・毎週水曜日全校にてフッ化物洗口の実施。	A		B	・毎週水曜日にフッ化物は行えている。健康に関して、生活習慣が家庭の事情による乱れや電子機器の夜遅くまでの使用による生活リズムの崩れが見られる。学級での指導は行っているが、家庭との連携が難しく感じる。	B	社会環境・家庭環境にも左右されるので、難しいと思われる。生活リズム改善について、学べる仕組みが欲しい。					
教育の実現に向けた共生社会の推進	○特別支援教育の充実	・特別支援教室巡回指導の充実 ・特別支援教育の理解を深める研修の実施。	・月1回のやまぶきとの打ち合わせの実施。 ・やまぶきの理解啓発研修を実施し、通級への理解を図る。	A		A	・打合せ時間を確保し、確実に支援の方向性の共有をしている。 ・研修を通して、特別支援教育に対する理解を深めている。	A	特別支援の充実を更に図ってほしい。					
	○ユニバーサルデザインの視点での授業改善・環境整備	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・特別支援教育研修会の実施 ・主幹教諭による学習環境の確認 月1回	B		B	・ユニバーサルデザインの視点に立ち、すべての児童が学びやすい授業改善と環境整備に努めている。特に、特別支援教育に関する研修会を実施し、教員が共通理解を深めることで、校内全体の指導力の底上げにつなげている。	A	ユニバーサルデザインの視点について、進めてほしい。					
	○人権教育、道徳教育の推進	・様々な立場の人と交流する機会を全学年設定する。	・月1回の友達学級集会の実施 ・異学年交流の充実 教員肯定的評価85％以上 児童肯定的評価85％以上	B		B	・月1回の友達学級集会を実施し、異学年交流や学級内での協働活動を通して、相互理解と信頼関係の構築を促している。	B	継続して実施し、ねらいを達成してほしい。					
不登校・充実にいじめ対応の	○不登校・いじめの未然防止並びに早期発見・早期対応	・学期に1回、いじめアンケート・いじめ関連の道徳授業の実施、研修 ・L-Gateの実施 ・SCやSSW等の外部機関と連携を強化し、不登校児童を関係機関とつなぐ	・年間3回実施率100％・いじめ解消率100％、研修の実施 ・L-Gate全学年実施 ・つながりのない児童 0％	B		B	いじめアンケートは学期に1回実施予定。アンケートにより把握したいいじめのうち継続見守りが必要な件数が2件。適宜指導を重ねている。不登校児童のうちつながりのない児童は1名。家庭との連絡を続け、今後も関係機関につながるよう促す。	A	教師だけでなく、様々な機関と連携をし、教師の対応範囲を考えたい。					
	○不登校の増加、いじめの未然防止を図る	・月曜日の夕会で情報を共有し「いじめ・不登校委員会」を活用する。	・魅力ある学校「学校は楽しい」児童肯定的評価 90％	A		A	夕会を活用し教員間の児童の情報共有を図っている。L-Gateの集計から、児童は学校に対し肯定的に捉えている。	A	L-GATEの活用について、工夫して取り組んでほしい。児童は、自分の様子を誰にも知られず教員に伝えられるシステムは素晴らしい。					
	○安全・安心の居場所づくり	・安全指導の徹底 ・けが、事故の防止と対応	・月1回の安全指導 ・即日対応の実施	A		A	安全指導を月1回確保できている。けが、事故については防止のための指導を重ねているが、起こってしまった際には適切な対応を即日行っている。	A	これからも、安全安心の学校づくりをしてほしい。					
学校（地域）関係者の実	○学校ホームページの充実	・学校ホームページの更新	・年間300回以上更新 ・学校の様子がよく分かる。ホームページ等が充実している。保護者アンケート80％	A		A	現在213回（10月14日）を実施した。情報担当より、7月にホームページアップ研修を実施させた。更に情報発信ができるようにする。	A	ホームページについて、昨年度より閲覧数が1万5千回増え、たくさんの方み見てもらえている。これからも続けてほしい。					
	○学校関係者評価の充実	・児童、保護者、地域、教員へのアンケート実施	・児童・教員は学期ごとに、地域・保護者は2学期終わりに実施	A		A	児童には、児童アンケートを実施・教員には、学校関係者評価を全教員に実施させ、3PTで確認させ、期末に向け課題を考えさせた。	A	早めに計画を立てることにより、次年度への引継ぎにつなげることはとても大切である。					
教育の特色ある展開	○授業改善に向けた研究	・各単元で身に付けたい力を明確にし、指導と評価の一体となる授業実践。	・授業が分かりやすい。児童肯定的評価85％。授業改善に取り組んだ。教員肯定的評価100％ ・夏にミニ発表会の実施 ・水曜日は教材研究日	B		A	・夏季休業中の校内研究会を実施した。全教職員で、1学期の総括と、解決していきたい課題を設定した。 ・子供たちの思いを出発点にして、身に付けさせたい力が育つように授業改善を推進している。	A	余裕のある時に、研修を実施することは働き方においてもよい。					
	○働き方改革の推進	・1か月の時間外在校時間を45時間を超える教員を0を目指す。 ・会議を精選し、水曜日午後を教材研究・分掌の活性化にあてる。	・時間外勤務45時間以内 85％ ・水曜日午後の業務内容改革。	B		B	時間外勤務45時間以内の教員が、4・5月の81％7月・9月89％まで増加させている。水曜日午後を教材研究だけの時間を意図的に設定できた。	B	時間外が減っていることは素晴らしいが、30時間以内にできるように対応してほしい。					